令和６年度 市民と市長の対話集会

**市長と語ろう*！*ほっとミーティング**

**開催結果報告書**

**１**　開催日時　令和６年（２０２４年）１１月２０日（水）

午後２時から３時３０分まで

**２**　開催場所　中央公民館　大会議室

**３**　参加者 平塚市公民館連絡協議会　６人

**４**　テーマ　　時代に即した公民館のあり方



**５　市長あいさつ**

館長の皆様におかれましては、地区公民館の管理、運営、また地域のご支援にいつもご尽力いただいていることに対して、改めてお礼を申し上げます。この「市長と語ろう！ほっとミーティング」は、平成23年に私が市長に就任してから開催してきました。

平塚市は全国的にも珍しく、小学校区におよそ１館の公民館があります。他市では多いところでも中学校区に１館ですが、平塚市の場合は小学校区に１館ですので、公民館が果たす役割は非常に大きいと思っています。私は平成23年に就任してから地区公民館のコミュニティセンター化を提案してきましたが、まだ方向性が出ていなくて申し訳ありません。人口がこれだけ少なくなってきて、地域の様々な活動など、若い人たちも含めて接点が少なくなってきた中では、もう一度公民館が地域に果たす役割を見つめ直す必要があると思っています。館長の皆様には、今地域で抱えている課題も含めて、公民館に対する様々な思いをお聞かせいただいて、社会教育、生涯学習、それから地域づくりに役立てたいと思っていますので、よろしくお願いします。

私は職員時代の平成７年から平成12年の５年間、岡崎公民館の主事として勤務していました。社会教育と生涯学習への思いが強くあるため、これらを通して地域づくりを進めていく必要があると常々思っています。今日は公民館を取り巻く現状も含めて、ご意見をいただければありがたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

**６　主なミーティング内容**

【司　会】

皆様こんにちは、湘南NPOサポートセンターというNPOの代表を務めています坂田と申します。日頃は崇善地区にございますひらつか市民活動センターで、平塚の地域づくり、市民活動の応援ということで活動しています。

今日は公民館長の皆様にお集まりいただいて、時代に即した公民館のあり方について意見交換をいたします。

　市内にはおよそ小学校区に１館ずつ地区公民館が設置されており、中央公民館を含めると全体で26の公民館があるとのご説明がありました。公民館は社会教育の中核的な場所として、また地域住民の教育や交流の場所として果たす役割が非常に大きいと考えています。しかし公民館活動に対して強い関心と興味を持って参加される方がいる一方で、若い世代の中には公民館活動に関心がない、あるいは関心があっても参加する時間がない、方法が分からない、そういった方々も増えているのが現状ではないかと思います。

　今日はまず公民館の抱える課題を皆様からお話いただき、続いて、時代に即した公民館のあり方について意見交換をさせていただきたいと思います。それでは、まずは参加者の皆様に自己紹介をお願いします。

【参加者】

南ブロックの松原公民館の館長をしています。松原地区は人口8,000 人ぐらいで、世帯数4,000ちょっとで割合小さいですけれども、特徴的なのは、相模川の東側、対岸にも約200 世帯の人たちが暮らしているところです。

私は松原生まれの松原育ちで地元の人間ですけれども、40歳代の初めに子ども会の会長を務めた後は地域から離れてしまっていました。

　どうして館長に就任したかというと、父と母の病気によって会社を早期退職して看病に当たったのですが、数年して父が亡くなり、母も施設に入ることになり、手が空いた状態になりました。そのとき、近くにいた方から声をかけられて、自治会長を２年間務めさせていただきました。その後、前の公民館長の交代に伴って指名され、ちょうどコロナ初期の頃に公民館長になり、今年で５年目になります。

【参加者】

四之宮公民館の館長をしています。山口県出身で四之宮に居を構えてから43年になり、現在76歳です。仕事は山口県の高校を卒業して、広島県福山市の日本鋼管の研究所に就職しました。64歳で仕事を辞めてから四之宮地区自治会のお手伝いを始めて、69歳のときに四之宮地区自治会連合会の副会長を１年、会長を４年間務めさせていただきました。その後、公民館長就任の打診を受けて現在に至っています。よろしくお願いします。

【参加者】

神田公民館の館長をしています。私は根っからの田村育ちで、親子三代、神田小学校、神田中学校です。神田公民館の特徴としては敷地が非常に広いことです。建物の面積も大きく、約2,800 ㎡で図書館、体育館、証明書の発行窓口があります。体育館には平塚市内から大勢の方が利用しにきています。図書館にも田村地区以外から利用者が来ていて、事務所も活発に動いています。

私個人としては、昔から田村のお祭り関係に携わっています。市長が入庁された頃には、地域からお神輿を作ってほしいと要望されて、当時の宮総代の方にお願いして一年がかりでお神輿を作っていただきました。次の年には八坂神社の神輿保存会を作るなど、長く地域のために活動してきました。64歳で仕事を辞めて、その後自治会を６年、八坂神社の宮総代を３年務め、73 歳で神田公民館の館長に就任しました。

【参加者】

吉沢公民館の館長をしています。私も吉沢生まれ吉沢育ちの生粋の吉沢っ子です。よろしくお願いします。

吉沢公民館はおかげさまで新しく建てていただいて３年目になりました。斬新なデザインで広い駐車場があり、吉沢地区以外からも大勢の方が窓口や活動に来ています。活動されている参加団体の約半数は地区外の方ではないかと思います。

吉沢には10年ぐらい前から公民館長の任期は４年という話がありましたが、次の館長を選ぶ推薦委員会で候補者がいなかったため、他に誰もいないという理由で私が引き続き就任することになりました。あと２年間は頑張りますので、よろしくお願いします。

【参加者】

須賀公民館の館長をしています。地元の人たちは港学区にありながら須賀の名前が残っていることを非常に誇りに感じています。三島神社の一角をお借りしていますので、神社とのつながりは深いです。他に競輪場があること、湘南海岸、漁港を抱えていることを特徴としています。海の魅力を生かして、海と山の探検隊、海産物の加工を中心とした匠の店めぐりなどは子ども向けに好評なイベントです。

　漁師気質が根付いていて、一致団結の気風があります。最近は地区レクの半日開催が多い中、須賀の方は1日開催となっています。また、今年は港小学校創立 150 周年記念式典を11月末に地域主催で開催する予定です。各組織のつながりが強い中で、公民館が支えられているところです。どうぞよろしくお願いします。

【参加者】

大原公民館の館長でございます。早いもので館長となって５年を迎えています。３期目になります。

私は、昭和48年４月に平塚市役所に就職をしました。当時は３月に就職前の研修があり、その時に希望する職場を聞かれて公民館と返答しましたが、４月に辞令を頂いたところ、希望とは違う部署への配属でした。機会があるごとに公民館への異動を希望しましたが、最後の最後まで実現しなかったという思い出が残っています。

現在は、ある意味では念願がかなったといいましょうか、現役職員とは違ったポジションですが、公民館の仕事に関わっています。教育委員会の指導をいただきながら、地域の皆さんをはじめ、大原公民館は大原小学校との複合施設になっていますので、学校の先生方や児童の皆さんたちと一緒に楽しく地域活動をしているところです。本日はどうぞよろしくお願いします。

【司　会】

早速ですけれど、皆様が日頃から抱えている公民館の課題を順番にお話いただいて、その後、時代に即した公民館のあり方に移っていきたいと思います。

【参加者】

どこの公民館でも同じ課題を持っているのではないかと思います。公民館の活動は、どうしても地域力の強弱によって活動に影響が出てくると感じています。

地域が元気で活動が盛んであれば、おそらく公民館の活動も充実できると思います。こういった中での公民館の課題として、１つは公民館を含めた地域での人づくりをどのようにしていけばよいかということがあります。地域でも公民館でもそれぞれ関わってきた方々の高齢化が進んできています。その一方で若い世代の方々の参加は少なく、これからの公民館や地域を支える担い手の不足にどのように対応していくかということが大きな課題としてあると思います。

２つ目には、地域でのつながりをどのように作っていくかということです。ライフスタイルの多様化、あるいは核家族化、共働き世帯の増加によって、地域でも公民館でもつながりが弱くなってきていますので、公民館や地域を支えていくためには、どのようにしたらよいのか、という課題があると思います。

【司　会】

今のお話は全ての地域に共通することかもしれないと感じます。高齢者中心の利用になっていること、子どもや若者の利用が少ないことは、共通する大きな課題かと思います。

【参加者】

ハード面の話になりますが、須賀公民館は２階にホールがあってエレベーターがないため、階段を利用することが難しい方は活動に参加しにくくなっています。駐車場も３台しかありませんので、歩いて移動できる元気な人のみ利用できるような状況になっています。たくさんの車が止められないので、ブロック事業の会場にもなれません。また、仕事をされている方は、曜日と時間が固定された活動に参加していることが多いですが、公民館は安定した利用が保証されていないことも原因です。公民館を利用するには、まず内容の協議、そして参加できる曜日を選びます。さらにその月ごとに利用申し込みをして、利用月の１か月前に予約が取れているかの確認のため、公民館へ９時に行く必要がありますが、この確認に行ける人は限られています。

公民館には優先団体があり、また公民館独自の事業も入ってくるので難しさはあるかと思いますが、各団体の年間計画というのは前年度中にほぼ決まっていると思いますので、月ごとの予約から年間予約に切り替えた方がよいものもあります。安定した利用が保証されていることが利用しやすさにつながると思いますので、全て切り替えるのは難しいかもしれませんが、一部そうしたやり方を取り入れながら、予約手続きなど公民館の規定、決まりなどを見直していくことも必要ではないかと感じています。

【司　会】

地区公民館の利用については、もっと使いやすくしてほしいという声をたくさん聞いています。

【参加者】

やはり働いている世代の人たちがなかなか公民館に来てくれません。お年寄りもだんだん高齢化しているので来にくくなっています。子どもたちは学校があるので、夏祭りや公民館まつりには来てくれますが、それ以外で来てくれるチャンスが減っています。つまり、公民館の利用人数が伸びないことが大きな悩みだと思います。

公民館に大勢の人が来てくれることが、地域のいろいろな意見を吸い上げたり、地域をまとめたりする大きなきっかけになると思います。そのためにはどうしたらよいのかと考えると、参加団体が登録制になっていることが一つのネックになっているのではないかと思います。使う人はいつも使いますが、使わない人は足が遠のいてしまい、むしろ敷居が高くなっていると感じます。例えば、日曜日は誰でも使えるようにしたり、調理室を自由に使えるようにしたりなど、登録しない団体でも施設を使えるチャンスを作ることができたら、もっと人が来て盛り上がるのではないかという気がします。よろしくお願いします。

【参加者】

私は北ブロックに属していますが、北ブロックのある公民館の主事と館長さんが言っていたことがあります。

小学校の近くに公民館ありますので、夏の暑い時期は小学生が学校の帰りに公民館に立ち寄って、持ってきたゲーム機で遊んでいます。

他にも、公民館が私書箱のように使われていて、団体の荷物が公民館宛に届くようです。主事が仕分けをして持って行くらしいのですが、そのことを注意すると、自分たちはボランティアだが、あなたたちは給料をもらっているのだから、そのくらいのことはやって当然のような言われ方をして、今その問題は解決していないそうです。

あとは調理室ですね。調理室の稼働率がどこもあまりよくないです。そこで、ある公民館では子ども食堂を計画しています。子ども食堂は全国に一万軒あるそうですが、公民館の調理場を解放して子ども食堂にしたらどうかという話が持ち上がっているところもあるそうです。

【司会】

夏には子どもたちが公民館に涼みに来るのはよいですね。

【参加者】

学校が終わるとみんなで来てゲームをしているのですが、利用している団体からうるさいと言われます。注意するのがお前の役割だろうと主事が言われている状況です。

【参加者】

課題は皆さんとほぼ同じですが、四之宮公民館では新しい建物の落成式が１月14日にあります。このチャンスを逃さないように、公民館だよりや SNSなどのツールをうまく活用して、新公民館を積極的にアピールすることが、私の責務ではないかと思っています。

自己紹介で仕事を64歳で辞めてから地区の自治会のお手伝いをしたと申しましたが、恥ずかしながら、それまで今の四之宮公民館がどこにあるかを知りませんでした。家と駅の往復で公民館のことをほとんど知らなかったのですが、おそらく同じような人がたくさんいると思います。そういう人たちを一人でも多く見つけて、積極的に公民館をPRしていくことが私の職務ではないかと思っています。新しい公民館になるということで、これをチャンスに積極的に動きたいと思っています。

また、今の四之宮公民館にはフリースペースがありませんが、新しい公民館にはあります。中庭もありますので、そこにテーブルを置いて自由にお茶を飲める場所にするなどの活用方法を考えて、一人でも多くの人に公民館を利用していただけるようにしていきたいという気持ちでいます。

【司　会】

課題というよりは、これからやりたいことについて、前向きな話がありました。フリースペースや中庭があるのですね。落成後に訪問したいと思います。

【参加者】

松原公民館もコロナ以降だいぶ利用が減りましたが、今は70～80% の利用状態に戻ってきました。

　南ブロックで会議をしましたが、老朽化がひどくて雨漏りするような館が何館かあるようです。幸いにも松原公民館は、来年度、大規模改修をしてもらえますが、進めるに当たって、我々がどこかに移る必要があります。改修中に各団体がどのような形で利用できるのかが、これから進めていく上で悩ましいところです。

　また、先日の台風10号では公民館が避難所のように使われました。公民館としては、避難所ではなく避難場所としての役割だと認識しています。もし避難所という形をとるならば、物や人を早く整備してもらい、水害だけではなく、地震もいつ起こるか分からないので、体制の整備を進めてもらいたいと思っています。

【司　会】

温暖化が厳しくなり、いつ災害が起こるか分からないので、体制作りが今後の課題かもしれません。

　それぞれ皆様に現状の課題を出していただきました。高齢化により若い人の利用の減少、あるいは使っている人の固定化、予約の取り方、登録の仕組みなどの課題がありますので、運用規定、利用規定を見直してもよいのではないかと思います。また、調理室の使い勝手などについても話がありました。とても重要なご意見ばかりだと思いました。

　それでは、次に、時代に即した公民館のあり方ということで意見交換をしていきます。

働く人が増えてきて、共働きの方、高齢の方も増えています。働く人が増えてくると、やはり地域の活動拠点となる公民館の利用も変わっていくのかと想像しています。時代に即した公民館について皆様がどう捉えているのかというところからお話をしていきたいと思います。

【参加者】

最近、市でロゴマーク「あったかひらつか」と、平塚駅周辺の将来構想（素案）を発表されています。それに即して公民館がどうあればよいかという話になると思います。世の中もいろいろと変化がある中で、公民館に来ていただけるように居場所づくりを考えていく必要があると思います。

　松原公民館の場合は、談話室という部屋を設けて、小学生やお年寄りの方が少し休めるところは設けてありますが、机と椅子があるだけなので、本当の談話室ではありません。サロンのような気軽に休めるところが必要だと思っています。また、中高生については、勉強できるようなエリアを設けられたらよいと考えています。

【司　会】

大規模改修が目前ですから、少しでも希望を反映させたいですよね。やはり居場所づくりは、とても大事だと思います。そこに行けば誰かと話ができる場所というのは、つながりが希薄化している今では、公民館がそういう拠点になると、とてもよいと思いました。

【参加者】

先ほど居場所づくりの話で、フリースペースのことを言いましたが、公民館を利用するには、まず事前に団体登録をしないといけません。その団体の中にその地区の人が１名でもいれば登録できるという制度になっていますが、そこまでしなくても、空いている部屋があれば使ってもよいと思います。どのように運営していくかという問題があるので、そのあたりがネックになっているという気がします。

フリースペースについては、使いやすさを含めて考えないといけません。飲食や飲酒をするのはよくないと思いますが、そこに行けば誰かがいるというスペースがあると、よいのではないかと感じています。

【司　会】

誰でも使えるというのは、聞こえはよいですが、その反面、危険も伴うということで、やはり公民館を使う方々はメリットとデメリットを同時に考えると思います。なかなか難しいことですが、条件付けをどうしていくかが課題になるのかもしれません。

【参加者】

田村地区では近年、非常に商業が発展し、多くのビジネス拠点があります。

私が連合会長をしていたときに、ダメもとで商店、飲食店、会社などを回って、100社から自治会の協賛金にご協力をいただきました。年間 60万円ぐらいです。企業も自治会に理解を示されていて、今でも100 社から協賛金という形で寄付をいただいています。

そういう関係上、地区の公民館を企業の人たちに利用していただいてもよいと思います。無料ではなく、お金を頂けば公民館も潤います。

公民館でお金のないところは大変です。自治会からの助成金がありますが、助成金のない公民館では、どうしているのかと思います。

田村には自治会に協賛金を出していただける会社が100社ぐらいありますので、その企業の人たちが公民館をうまく活用して、事業に利用するなどが考えられると思います。現時点では営利目的で利用できない規約があると思いますが、少し緩和して、一般の地域の人でなくても、その地域に勤めている人が公民館を利用できれば、もっと公民館の稼働率が良くなって賑やかになると思います。

先ほど、いつでも誰でもどこでも利用できるようにというお話がありましたが、神田公民館では利用目的の分からない人がロビーに何人か座っています。半日も一日もいて、何をやっているのか聞くと、ここは公民館だからいいじゃないかと言われます。自由な利用には、苦労もあります。四之宮公民館には地域の人しか来ないかもしれませんが、神田公民館には体育館、図書館があり、近くに商業施設が多くあります。トイレの使用後にそのまま居座ってスマホを見ている人が１年中いたり、隣のスーパーで昼食を買って、公民館で食べて夕方までいたりする人もいます。そういうわけで、誰もが勝手に出入りできることには、少し懸念があります。

【司　会】

ありがとうございます。地域によってすごく特性・特徴があって様々ですね。画一的に行うことは非常に難しいように思っていて、それぞれの地区館の中で特徴が出てくるとよいのではと思って聞いていました。地域の特徴を生かして企業としっかり連携を取りながら、協賛金をいただくという取組をされていて、そういった収入源をしっかり確保しながら事業展開できるとよいと思いました。

地域の企業が公民館を使えるようにすることも、時代の流れの中で検討してもよいと思いました。

【参加者】

吉沢公民館では、目的の分からない人がふらっと来て過ごすという状況は見られません。独居の高齢者はたくさんいるのですが、公民館に来る足がありません。来ようと思っても道路はバリアフリーではないからです。様々な人の居場所を作るためには、地域性もあると思いますが、福祉輸送も少し考えていく必要があると感じています。３年ぐらい前に吉沢の福祉村の方から公民館で考えてくれないかと相談されたことがありますが、責任の問題や保険の問題などがあり、考えれば考えるほど難しいです。

また、子どもたちを呼び込むというのは公民館活性化の最大のポイントだと思います。吉沢地区は夜が暗いので星空観察ができます。博物館の学芸員の方に大きい望遠鏡を持ってきていただき、お月様や人工衛星を見るイベントを実施しました。夜ですから必ず保護者同伴の条件を出しています。子どもをうまく惹きつけるような事業を展開すると保護者もついてくるので、その子どもたちを公民館に呼び込むことを主眼として考えることが大事だと思います。そうすると、人は公民館にだんだん集まってくる気がしています。

【司　会】

地域の福祉移送については６年くらい前に関わらせていただいて、土屋地区では大庶子分自治会が自ら始めました。須賀新田ではシニアクラブが行っています。吉沢地区では安全の面で非常に躊躇されていました。

やはり足がないとなかなか行きたくても行けないという方がたくさんいらっしゃると思うので、今後の課題かもしれません。また、子どもたちに公民館を利用してもらうことはとても重要だと思います。

横内地区の事例ですが、子どもをテーマにしたイベントには必ず保護者がついてきますし、おじいちゃんやおばあちゃんも来て、非常に賑わっています。やはり子どもをテーマにしたイベントはとてもよいと思いました。そこに関わる保護者が、やがては地域の担い手になっていくと思いますので、そういう取組ができていくとよいと思います。

【参加者】

公民館自ら努力しないといけないと思う理由は、地域の方たちのニーズに合った内容、魅力的な内容を企画すれば、人は集まってくるという体験をしたからです。須賀公民館で月１回30分のお話会を設けていますが、最初は10人以下だった参加者が、最近は20人、30人となり、幼児とお母さんのみならず、お父さんも小さなお子さんを抱えて参加されています。

内容は本の読み語りだけでなく、紙芝居やエプロンシアターもあり、歌やギターが入ることもあります。進行の仕方もただ読んでいるだけでなく、一人一人に語りかけて全ての子どもが参加できるような内容になっています。本当に楽しいので、次も是非参加したくなります。企画の内容は公民館自らが改善し、工夫していかなければいけないところだと感じています。

また、学校や学童との連携、そして須賀の場合は福祉村が非常に離れているので、その福祉村との連携もなかなか取りづらいところがあります。どういう形で、そうした地域の組織や団体との関わりを深めていくかについては、今後の課題として感じているところです。

【司　会】

お話会を運営されているのは利用団体の方ですか。ファシリテーションが上手な団体をきっかけに他の人も動いていくとよいと思いました。福祉村との連携が課題ということですが、距離もかなり重要ですね。

【参加者】

先ほどフリースペースの話が出ました。公民館は、基本的には登録された団体の皆さんが社会教育の場ということで利用されていますが、地域の皆さんにとっては、どちらかというと公民館は片苦しい、行政による上から目線のような施設と思われているのではないかと私は感じています。これからは誰もが今まで以上に気軽に利用できる施設にしていかなければいけないと思います。

大原公民館には、いわゆるフリースペースの部屋が談話ロビーとして１階にあります。このフリースペースを地域の多くの皆さんが自由に利用していただくということになれば、地域での交流の場の一つになるのではないかと思い、誰でも自由に利用できることをご案内する準備をしています。年明けには公民館だよりで住民の皆さんにお知らせをしていきます。このフリースペースを利用されれば、今まで以上に身近な公民館、今日のテーマになっています時代に即した公民館になるのではないかと思います。

【司　会】

ありがとうございます。談話ロビーの活用というのは、今後の交流の場として有効だと思います。

【参加者】

今は放課後になりますと小学生が多く公民館に来るので、最低限のガイドラインが必要だと思っています。入室、片付け、ごみの出し方など、簡単なガイドラインを作って、それをもとに利用していただくよう準備をしているところです。

【司　会】

ここで市長から少し皆さんのお話を伺ってのお言葉をいただきたいと思います。

【市　長】

ありがとうございます。課題についてはまさに館長の皆様が感じている生の声であり、私も30年前には岡崎公民館の主事でしたが、当時からそういう傾向はありました。

高齢化も進み始め、若い人たちに来ていただけるかは大きな課題で、できるだけ子どもたちに参加してもらうことを考えていました。岡崎の場合は歴史が深く、歴史家の人もおられましたので、そういう方と連携して、子どもたちに地域の歴史を体験してもらうオリエンテーリングをしました。面白いテーマで企画を作って実施すると多くの方が参加してくれるので、若者を惹きつけるために実施した覚えがあります。当時からエレべーターはなかったので、高齢者からは２階に上がっていくのが大変だと言われました。改築、改修を含めてバリアフリーをできるだけ進めようという思いがありますので、ハード面での整備は計画的に行っていこうと思っています。

　また、若い人たちをどう取り込むか、高齢の人たちにどのように対応するかは館長の皆様と主事でご検討いただければありがたいと思います。

今回は資料を準備しました。最後にその資料に沿ってお話をしたいと思いますが、当時も同じ課題について書いています。

また、時代に即した公民館については、人口減少により、地域活動や社会教育、生涯学習に関わっていこうという方たちが少なくなってきている状況ですから、公民館の活動によって平塚市の特徴を生かした地域のつながりができると思います。

総合的に考えると、これからは地域のコミュニティセンターのような場所を目指し、皆様に来ていただけるような環境づくりをしていくことが、公民館を活用した大きな力になっていくと思っています。今までは、どうしても少し利用しづらいという印象を与えがちでしたが、そうではなくて、公民館については、自由に来て自由に使っていただけるようなスペースになっていくと思います。基本としては、生涯学習、社会教育、市民サービスの拠点ですが、これからの公民館は、地域の絆、つながりが求められる場所であり、そういう立ち位置にならなければいけないと思っています。

　平塚市は昔から地域活動が盛んでしたので、今は27の連合自治会があり、それぞれの連合自治会でそれぞれの歴史や文化を持って活動していただいています。助け合いや支え合いの仕組みは素晴らしいものがありますので、これを生かしていきたいと思います。

今年、新たなスローガン「あったかひらつか」を策定しました。平塚市は、気候が温暖で、人と人とのつながりがあります。このスローガンには、平塚の人の“温かさ”とそこに、よいものがあるという気づきの“あったか”をかけています。今回可愛いロゴもできましたので、各公民館でも使ってください。そういうものも利用して、気候だけではなく、平塚の人の温かさを若い世代からつなげていく社会づくりをしていきたいと思っています。

【司　会】

市長が公民館にお勤めされていたこともあって、非常に熱い思いを持っていることは皆様ご存知だと思います。公民館がコミュニティセンター化を目指したらよいのではないかとの話がありました。社会教育、生涯教育ということを根底に置きながら、地域の人たちがつながることのできる場になるため、いかに皆様に情報を発信していくことができるかが重要だと思います。市長のお話を受けて、ご質問があれば市長にお答えいただければと思いますが、いかがでしょう。

【参加者】

公民館は社会教育施設ということになっていますが、コミュニティセンター化というと複合的な様々なものが出てきます。役割分担をはっきりしないと逆に公民館の存在が弱まってしまいます。コミュニティセンターの中で社会教育をする場を作るということであれば、公民館という名前が変わってしまうのかと思います。私たちは公民館の館長として、社会教育の場としての公民館をもっとよくしていきたいという気持ちでやっていますので、社会教育の場として住民の皆さんに使ってもらいたいとの思いがあります。

【市　長】

館長の懸念はもっともで、今までの歴史の中で公民館が果たしてきた役割は、地域の社会教育を担うことです。どういう形で地域貢献ができるのか、様々な立場に立って教育や啓発をする場であり、その中で生涯学習という概念が出てきました。

　生涯学習とは、生まれてから幼稚園や保育園、小学校、中学校と学校教育も含めて全てが生涯学習です。私は様々な生涯学習の講義を受けましたが、いろいろな技術を磨いたり、知識を得たり、それらが全て生涯学習です。

例えば、公民館の中に子ども子育てや福祉などの様々な事業が入ってくるかもしれませんが、それは大きい目で見ると地域の人たちにとっての生涯学習や、情報提供の一つとして捉えられます。決して公民館という名前をなくすわけではなくて、様々な生涯学習ができる場や、知識の習得や活動ができる場の拠点になり得るという意味において、コミュニティセンター化を目指した方がよいのではないかと思っています。

しかし、コミュニティセンター化を目指すにしても、自由に来て気ままに使ってよいというのは少し違います。公民館は税金をかけて作った施設であり、市民サービスを提供する場でありますので、そこはしっかりとルールを決めておかなければいけないと思います。公民館の活動をやめるということではなく、公民館の機能をしっかりと持って、コミュニティセンター化ができたらよいと思っています。

【参加者】

公民館という名前自体に足が向かない理由があるのではないでしょうか。例えば、四之宮コミュニティセンターという名前にして、機能としては今までの公民館機能を維持しながら新しいこともやっていけば、足を踏み入れやすくなるように思います。利用のしやすさにはネーミングもかなり関係するのではないかという気がしています。

【司　会】

いろいろと賛否はあると思いますが、若い人たちがネーミングを変えるだけで利用してくれることもあるかもしれません。名前は変えたくないという気持ちもありながら、名前を変えることで様々な人たちにとって使いやすくするというイメージ戦略もあると思います。

【参加者】

イメージと言えば、公民館の建物自体が本当に公民館という形をしています。今後建て替える場合は、ネーミングや建物のデザインなど、色々考えてほしいと思います。

【司　会】

最後に市長から資料の説明も併せてお話をいただければと思います。

【市長】

今日は資料を３つ用意させていただきました。一番古い資料が「地区公民館の課題とこれからの役割について」で、平成９年春に社会教育主事研修を受講したときに作成したレポートです。

これを見ていただくと、まさに今の課題がそのまま載っています。「Ⅰ．はじめに」では、平塚市の特徴を記しています。

次に「Ⅱ．平塚市の地区公民館の現状と課題」についてです。ブロック館でいろいろ活動をしていますが、１館だけではできないような事業が、ブロック事業だとできます。こういうものを是非とも活用するべきではないかと考えました。

それから今も問題になっているかと思いますが、どうしても主事が一人だとやりたくても、予算的、人的に限界があります。ブロックに６人ぐらい主事がいますので、うまく機動的に助け合いや応援ができるような仕事の仕方について触れてあります。

　３ページの「（３）事業展開から見た課題」ですが、「①事業体系はこれでよいのか」ということで、共通事業の中に今の時事・時世に当てはまるようなテーマを入れ込んで、地区の皆様と学習できる事業を展開しました。自主事業は自分たちの地域、歴史、文化というものを活用しながら実施するとよいと思いますが、それだけではなくて、共通事業に例えば時事を反映したようなものを入れていくとよいと思っています。

　「②生涯各期を見すえた事業が行われているか」では、子育てから高齢になって亡くなるまで、生涯の各期を見据えた事業実施の必要性について記しています。やはり、地域課題の解決やまちづくりを進めるには、主人公である地域や市民の意見をいかに取り入れていくかという考え方が大切です。

「③地域の独自性、市域への開放性はあるか」では、平塚市は本当にそれぞれの地域が素晴らしいので、独自性をしっかりと押し出して、それが市域全体に広まっていくことも、情報として皆に知ってもらうことも必要だと思いますので、そういうことを記しています。

「④提供していく事業だけでよいのだろうか」では、公民館が企画・提供していく事業だけではなく、住民が企画・立案する事業の必要性について記しています。

「Ⅲ．課題を見すえた、これからの地区公民館の役割」では、全ての年代層に利用してもらえる公民館になるための方策や事業展開の必要性、独自性の打ち出し、住民の参画意識、まちづくりの視点から地域づくりに関わっていく必要性について記しています。こういう思いが当時 30 年前にありました。

２つ目の資料「人と人との絆がはぐくむ豊かなまちづくりをめざして」は、市長就任後すぐに開催された「地域づくり21世紀かながわ円卓会議」の資料になります。平塚市は生涯学習、社会教育が盛んな市なので、市長に就任して目指すことを話してほしいとの依頼を受けて話をしました。

この会議では、できる人ができることをすると、地域の中で住民同士が互いに支え合う仕組みが生まれ、地域や市民が主体となって、地域課題の解決やまちづくりを進めることにつながり、地域主権時代における大きな力になるのではないかということを述べさせていただきました。

最後は「市町村長室の窓から」という資料です。これは社会教育の冊子で、平塚市が取り組んでいることを書いてほしいとの依頼を受けて、私がずっと目指してきた「人と人との絆がはぐくむ市民主役のまちづくり」というテーマで執筆しました。その中で公民館における取組や町内福祉村の紹介などもしています。

冒頭申し上げましたが、私は公民館主事として社会教育にずっと関わってきた人間です。やはり、市民の皆様に支え合ってまちづくりをしていただくことは本当にありがたいことだと思いますし、そのための取りまとめをしていただいている館長の皆様には、大変感謝しております。

　先ほどご提案いただいたことを参考とし、今後も市政を進めてまいります。そして地域の代表である館長の皆様には、お体に気をつけていただきながら、引き続き、ご支援賜りますようお願いいたします。長くなりましたが、本日はありがとうございました。